

茨城県立那珂高等学校 創立40周年記念式典・記念事業

- ・令和6年10月25日（金）9:20～12:20 体育館で、記念式典、記念事業を行いました。
- ・新型コロナウイルスの影響で、準備期間が短かったことから、参加者は、来賓なしで、学校関係者のみ。
- ・生徒約460名、教職員約40名、保護者約50名（実行委員含む）が参加しました。

【記念式典】



校 訓



誠 実
進 取
敬 愛

～校章の由来～

- 1 梅樺の葉を図案化し、「梅樺は双葉より芳し」の言葉に託して、生徒の望ましい成長と本校の限らない発展を願っている。
- 2 六枚の葉は、誠実・進取・敬愛の精神と知・徳・体の教育理念を表し、中央の円は結実を示している。
- 3 葉の水色は、那珂川の悠久不滅の流れと生徒の清い心を象徴している。

～創立40周年記念事業実行委員会～

組織名	学校	PTA	後援会	同窓会
実行委員長	菅谷耕作			
副委員長	阿内 勉校長	菱沼孝行、菊池淳子	秋山敏夫	山崎徹治
総務部	官地富雄教頭 市村晃一事務長	菱沼孝行、石井裕二 飯村真奈美	山田甲一 塩野高資	飛田弘道 小宅清史
式典部		菊池淳子、石川千鶴 鹿志村典子 飯村美由紀		
事務局	大塚雅昭、豊田慶太 内桶与子、佐藤秀俊 田中尚貴			

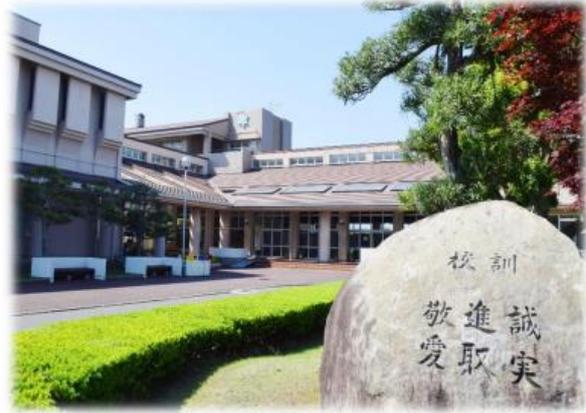
茨城県立那珂高等学校

〒311-0111 茨城県那珂市後台 1710-1
TEL 029-295-2710



創立40周年

記念式典



令和6年10月25日(金)

茨城県立那珂高等学校
創立40周年記念事業実行委員会

記念式典

式次第

- 1 開式のことば
- 2 国歌斉唱
- 3 実行委員長あいさつ
- 4 校長式辞
- 5 生徒代表のことば
- 6 校歌斉唱
- 7 閉式のことば



R6 クラスマッチ バスケットボール



R6 クラスマッチ リレー決勝

記念事業

- 1 漫 談 マリーマリー 様
えびちゃん (海老原 歩美 様) は、平成25年度卒、バレーボール部
- 2 演 奏 近田 ゆうき 様
ボサノヴァ歌手
- 3 講 演 山口 凌河 様
ゴールボール パラリンピアン、関彰商事(株)所属
演 題 ～障がい者スポーツアスリートから学ぶ～
「諦めない力・理解する心」

校 歌

作詞 飛田次義
作曲 白井英男

- 1 那珂の流れも 清らかに
緑豊かなこの大地
誠実(まこと)の道を 究めんと
明るく集い ひた学ぶ
若人われら ここにあり
- 2 空は澄みゆき 梅樺(せんだん)の
香りゆかしい 姿こそ
進取の気風 導きて
友情かたく 意気燃ゆる
青春永遠(とわ)に 栄光(ひかり)あれ
- 3 筑波はるかに 常陸野(ひたちの)は
歴史輝く 那珂の郷(さと)
敬愛の徳 忘るなく
新たな明日(あす)を 今創(つく)る
若人われら いざゆかん



第13回 六葉祭 オープニングセレモニー (吹奏楽部)

【実行委員長あいさつ】

涼しい秋風に、高く澄んだ空。大きく深呼吸したくなるような気持ちの良い季節の中、本日の「茨城県立那珂高等学校創立40周年記念式典」を無事迎えられましたこと、誠にありがとうございます。

阿内校長をはじめ、教職員の皆様、後援会代表 秋山敏夫様、同窓会代表 山崎徹治様、そして、実行委員の皆様のお力添えで本日の記念式典を迎えることができました。ありがとうございました。

さて、私事でございますが、昭和60年に創立された茨城県立那珂高等学校、開校時にまつわるエピソードがあります。学生時代の友人で小坪という友人がおります。その友人の祖父が植木業を営んでおり、40年前、那珂高敷地内の植木を正門ロータリーにある植木も含め植樹を行ったそうです。現在もなお、青々と彩る樹木は、埼玉県から取り寄せて来たものとお聞きしております。

さらに、友人小坪のお父様は、当時、高等学校教諭で那珂高開校初年度の校長飛田次義様のもと、体育科目教員としてご従事されていたとのことです。何やら不思議なご縁を感じております。

次に40年後の未来に目を向けたいと思います。

皆さんはおいくつになっていますか？ そして、どんな社会になっていると思いますか？

仮想空間、シミュレーションの世界になっている？ 世界が一つになって平和になっている？ 在校生の皆さんは良い年月を過ごし、幸せな家族と一緒に過ごしている？ 世界を股にかけて活躍をしている？ 困った人を助けている？ 考えたら限りはありませんが、私は、皆さん一人ひとりが幸福を感じてお過ごしになっていることを願っております。

40年前に思いを馳せると、その当時に在学していた学生とその保護者、教職員の皆様は、現在の那珂高等学校に関わる皆様に輝かしい期待と希望を抱いていたのではと推測します。

歴史は過去から現在、現在から未来へとつながっています。本日は、このつながりの節目の式典に携われたことに、感謝を申し上げ、あいさつに代えさせていただきます。

茨城県立那珂高等学校 創立40周年記念式典 実行委員長 菅谷 耕作



実行委員長あいさつ
実行委員長 菅谷耕作 様



校長式辞
阿内 勉 校長



生徒代表のことば
前期生徒会長 橋本朝陽 さん



創立40周年記念事業 実行委員会

【校長式辞】

本日、ここに茨城県立那珂高等学校創立40周年記念式典を挙げていくことができますことは、この上ない喜びであり、これまで本校発展のためにご尽力くださいました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

本校は、昭和60年10月に設置されました。この40年間で本校を巣立った卒業生は6,102名を数え、それぞれが県内外で、地域発展のために活躍されています。開校に熱意を持ってご尽力くださいました方々、そして、これまで生徒の健全な成長のために愛情を注いでこられた歴代の校長先生はじめ教職員の方々に深甚なる敬意を表すとともに、温かく見守ってくださった地域の皆様をはじめ同窓会、後援会、PTAの皆様に対し、改めて感謝と御礼を申し上げます。

この慶事を迎えるに当たり、従来ですと、多くの来賓の方々をご招待申し上げて、式典を盛大に挙げて、本校の歴史と伝統を皆で再確認すべき場であったはずですが、しかしながら、コロナの影響により準備期間の確保が容易でなかったことなどから規模を縮小しての開催という決断に至りましたこと、本日ご臨席の皆様にはご理解をいただけますようお願い申し上げます。

さて、本校は創立以来、地域の要望に応えるべく全日制普通科の高校として、進路指導の充実、特別活動の充実、そして国際理解教育の推進に努めてまいりました。

進路指導では、時代と共に変革していく入学試験や就職試験に対応しつつ、地域のリーダーを育成する学校として、その期待に応えるべく進んでまいりました。最近では、対面での指導に限らず、進路に関する有益な情報提供を生徒や保護者へ学習アプリ機能を活用して行っております。これからも、一人ひとりに寄り添った指導をとおして、進学、就職、公務員といった多様な進路希望の実現に努めてまいります。

また、7割を超える生徒が参加する部活動においては、運動部、文化部ともに成果を挙げております。全国大会、関東大会出場をはじめ、各種大会で多くの生徒が活躍しており、その実績とともに人間的な成長も実現しております。部活動の改革が叫ばれる中であっても、時代に即した活動を工夫しながら実践することにより、部活動の目的が達成できるよう努めてまいります。

さらに、国際理解教育では、海外短期留学や英語研修、異文化交流事業などを通して、グローバルな視点を身につけ、国際社会に対応できる力を育成しております。コロナ禍以降、諸外国との往来が制限される中でも国際感覚を身につけられるよう、那珂市との連携や国内英語研修など、様々な企画により国際教育活動の充実を図っております。

以上のような実績から、本校は水郡地区をはじめ県内外で多くの方々に認識されています。そして、このように本校の教育理念が、広く理解・支持されている要因には、本校を卒業された同窓生一人一人の、社会での活躍が大きく貢献されていると確信しております。

今、我が国は、AIに代表される技術革新とグローバル化による経済構造の変化、及び少子高齢化による家族や地域社会の在り方の変化が加速しております。それら社会構造の変動の中で生きる我々の常識や既成概念はフレキシブルになり、価値観や人生観までもが根底から変容していく可能性があります。さらには、短期的な将来ですら予測困難な時代を迎えております。

このような先行き不透明で、絶対的な正解がない時代を生き抜くためには、自ら課題を発見し、柔軟な思考のもと、他者と協力して解決していく資質や能力が求められます。

現在、本校においては、知識の習得のみならず、さまざまな主体的体験活動そこからの探究活動を通じて、真の生きる力を身につけさせる教育に取り組んでおります。

我々は、この度の創立40周年をひとつの節目として、時代に先駆けて地域や国を支えていく人材を育成していく決意を新たにしているところです。校訓である「誠実・進取・敬愛」の精神のもと、次の10年、20年に向けて、新たな飛躍を目指してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻、そしてご支援の程よろしくようお願い申し上げます。

結びに、このたびの記念事業の準備から本日に至るまで、特段のご尽力を賜りました菅谷実行委員長はじめ実行委員会の皆様に衷心より感謝申し上げます。併せて、本校が今後益々地域との結びつきを強め、たくましい若者が育ちゆく場であり続けることを心からお祈り申し上げます。式辞といたします。

令和6年10月25日

茨城県立那珂高等学校長 阿内 勉

【生徒代表あいさつ】

今年度前期生徒会会長の橋本朝陽です。

本日、茨城県立那珂高等学校、創立40周年記念式典が挙行されますこと、そして、生徒を代表してご挨拶できることを心からお礼申し上げます。

創立40年という長い歳月の中で数多くの先輩方が卒業され、各分野でご活躍されております。その先輩方がつないできたもの、そして、より良い学びの場として見守ってくださった先生方のおかげで今の那珂高校があるのだと思います。

また、那珂高校の生徒は40年前の頃から今現在までの伝統を絶やすことなくつないできました。それは、校訓である「敬愛」「進取」「誠実」を日々続けてきたからであると思います。だからこそ、これからも私たちが那珂高校の伝統をつないでいくため、皆さんの力、先生方の力が必要です。これからも協力をよろしくをお願いします。

最後に、この40周年記念式典の開催に、ご協力してくださった皆様に感謝を申し上げ、お礼の言葉いたします。

生徒代表 橋本 朝陽



【記念事業】

1 10:00-10:20 漫談 マリーマリー 様

- ・2019年結成。吉本興業所属。
- ・ヤンキー風で荒っぽいボケのえびちゃんと、ひ弱なツッコミのタコスのお笑いコンビ。
- ・喧嘩スタイルのどつき漫才。
- ・Netflix シリーズ「極悪女王」(全5話)。女子プロレスブームの一翼を担ったダンプ松本を主人公に据えた半自伝ドラマで、えびちゃんが、クレーン・ユウ役、タコスが片岡鶴太郎役で出演。
- ・えびちゃんは、那珂高校を平成25年度卒業。バレーボール部で活躍。

【漫談】

- ・「那珂高あるある」… 那珂高から後台駅への近道は、畑の中を通る未舗装の道。
- ・雨の日に通ると、くつがどろどろ。雨の日の放課後の水戸駅、くつを見ると那珂高生とわかる…。
- ・12年前、学校の購買の人気商品は「チョコタルト」。生徒に聞いたら、今は売っていない…。
- ・高校時代、えびちゃんは、「茨城のタランチュラ」と呼ばれていたらしい…。
- ・那珂高のようすを生徒に質問。えびちゃんの高校生時代のエピソードを交えた楽しい時間でした。



2 10:30-11:00 演奏 近田 ゆうき 様

- ・ブラジル本場仕込みのボサノヴァをルーツに、ガットギターの弾き語りのスタイルで独自の世界観を表現するシンガーソングライター。
- ・5曲を演奏していただき、透明感のあるきれいな声で、心が癒やされ、素敵な時間を過ごしました。

【演奏】

- (1) 夢を叶える龍 (オリジナルソング)
- (2) 遠き山に日は落ちて
- (3) Tristeza (トリステザ。ブラジルの名曲。「悲しみや悲しみの感情」)
- (4) 愛の花 (NHK朝の連続ドラマ「らんまん」主題歌)
- (5) 糸



3 11:20-12:20 講話 山口 凌河 様 (ゴールボール パラリンピアン、関彰商事 (株) 所属)

- ・茨城県取手市生まれ。幼少時代から野球に打ち込み、中学時代には野球部のキャプテンとして活躍。
- ・中学校2年生の時に、目の難病「レーベル病」を発症。2.0 あった視力を失い、わずかに人影や光を認識できる程度になる。
- ・東京 2020 パラリンピック競技大会に男子ゴールボール日本代表として出場して5位入賞。
- ・演題 ～障がい者スポーツアスリートから学ぶ～ 「諦めない心・理解する心」

【講演】

(1) ゴールボール競技の説明と体験

- ・①動画、②説明、③各クラスの代表生徒 12 名が体験 (ボールを投げる、足で止める)。
- ・ゴールボールは、第二次世界大戦で視力を失った軍人のリハビリテーションプログラムとして考案され、その後スポーツとして普及した。
- ・アイシェード (目隠し) を着用した 1 チーム 3 人のプレーヤー同士が、攻守を交互に入れ替えて行う。
- ・攻撃側は、1 人がバレーボールと同じ広さのコート内で、バスケットボールとほぼ同じサイズの鈴入りボール (1.25 キログラム) を転がすように投球し、相手ゴールを狙う。
- ・守備側は 3 人で、鈴の音を頼りに全身を使ってゴールを守る。ボールの中に鈴が 2 個入っている。
- ・コートラインの中に糸が入っていて、自分の位置や場所、方向を確認している。
- ・一定時間内の得点の多いチームが勝ちとなる。
- ・ボールに重さがあり、投球はかなりスピードが出て、想像以上に激しいスポーツである。

(2) 山口様の主な言葉

- ・私は、15 歳で視力を失った。自暴自棄になった時期もあったが、今はポジティブに考えている。
- ・嫌なことや逃げ出したいことを考えずに、マインドをプラスにして成功につなげていけばよい。
- ・私は、訓練をして、水戸市の盲学校に初めて自力で通学できた時はすごくうれしかった。
- ・神様は乗り越えられる人にしか試練を与えない。私は、障がいをもったことを試練だと思っていない。パリパラリンピックで日本代表から落選した方が試練であると思っている。
- ・「ストーク・マンデビヴィル病院」(イギリス) で、第 2 次世界大戦で負傷した兵士が、体力と自尊心を高める上で重要な治療法であると信じていた、ルートヴィヒ・グットマン博士によって障がいのためのスポーツ大会が企画された。
- ・1960 年には、ローマでオリンピックが開催された同じ日に同地でストーク・マンデヴィル競技会が開催されて、これが現在では第 1 回パラリンピックと位置づけられている。
- ・私は、パラリンピックの父・ルートヴィヒ・グットマン博士の言葉「失ったものを数えるな。残された機能を最大限に活かせ」を大切にしている。
- ・障がいは、工夫一つで乗り越えられる。違いを認め合う社会で、健常者の中で生きていく中で、目が見える見えないに関係なく、自分ができることは何か把握して過ごしている。
- ・障がいは、個性の一つで、背が高い、背が低いと同じで、引け目になるものではない。自分が受け入れて前に進んでいけば良い。生徒のみなさんには、傍観者になるのではなく、障がい者に声をかけて接してもらいたい。視覚障がい者は、みなさんの遠い存在ではない。
- ・視覚障がい者は、目が見えていたら当たり前前にできることができない。声を出してリアクションしてもらいたい。練習では、目が見えるコーチやスタッフと、声でコミュニケーションを取っている。
- ・今は、4 年後のロサンゼルスのパラリンピックの出場を目指したいと強く思っている。
- ・家族、友人、講演会で出会った人からの応援が背中を押してくれて、毎日を明るく過ごしている。

(3) 生徒からの質問

- ・筋トレの方法について教えてください。
- ・競技活動を通して、一番うれしかったことは何ですか、など。

